

## 次世代自動車センター浜松 活動レポート Vol.178

### ■ 次世代自動車センターフォーラム2023

次世代自動車センター浜松では、毎年4月に次世代自動車センターフォーラムを開催しています。

本年度の「次世代自動車センターフォーラム2023」では、カーボンニュートラルを含む次世代自動車対応に関して、世界各国の政策など最新動向や経済産業省の令和5年度の中小企業支援策を紹介する経済産業省自動車課 清水課長様による基調講演や、次世代自動車の開発には不可欠な“デジタルものづくり”をテーマにしたスズキ㈱ 望月部長様、静岡大学 早川教授様、静岡県経済産業部 増田部長様とのトークセッションを開催しました。また、望月センター長より、次世代自動車センター浜松の事業報告と2023年度の事業計画を説明しました。

■日 時：令和5年4月27日（木）13時30分～16時40分

■場 所：グランドホテル浜松

■参加者：118社/201名：

第1部 開会	
13:30～14:00	<p>主催者挨拶 公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構 理事長 古橋 利広</p> <p>来賓挨拶 浜松市長 鈴木 康友 氏</p> <p>【ビデオメッセージ】 経済産業省 関東経済産業局長 太田 雄彦 氏 静岡県知事 川勝 平太 氏 浜松商工会議所 会頭 齊藤 薫 氏</p>
第2部 基調講演	
14:00～15:00	<p>自動車産業の構造変化と中堅・中小サプライヤの事業転換支援 経済産業省 製造産業局 自動車課長 清水 淳太郎 氏</p>
第3部 フォーラム	
15:10～15:40	<p>次世代自動車センター浜松の活動報告及び今年度の事業計画について 次世代自動車センター浜松 センター長 望月 英二</p>
15:40～16:40	<p>トークセッション テーマ：「デジタルものづくりに関する中小企業支援の取り組み」 モデレーター 次世代自動車センター浜松 センター長 望月 英二</p> <p>【トークセッション1：モデルベース開発の適用】 スズキ㈱ 四輪車両技術企画部 部長 望月 義仁 氏</p> <p>【トークセッション2：デジタル人材の育成】 静岡大学 工学部 教授 早川 邦夫 氏</p> <p>【トークセッション3：3Dプリンタの利活用を含めたデジタルものづくり支援】 静岡県 経済産業部長 増田 始己 氏</p>
16:40	閉会

【開会】



【主催者挨拶】



【来賓挨拶】

＜浜松市長 様＞



＜ビデオメッセージ＞

＜関東経済局長 様＞



＜ビデオメッセージ＞

＜静岡県知事 様＞



＜浜松商工会議所会頭 様＞



【基調講演】 ＜経済産業省 清水課長 様＞



【フォーラム】

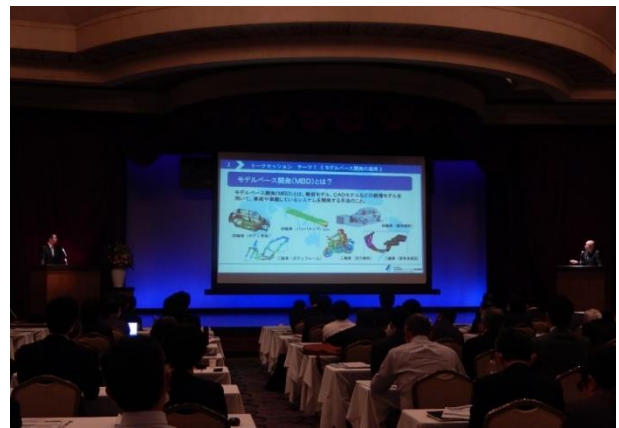
＜次世代自動車センター浜松の事業報告等＞



【トークセッション】

＜次世代自動車センターの取組説明＞

＜スズキ㈱ 望月部長 様＞



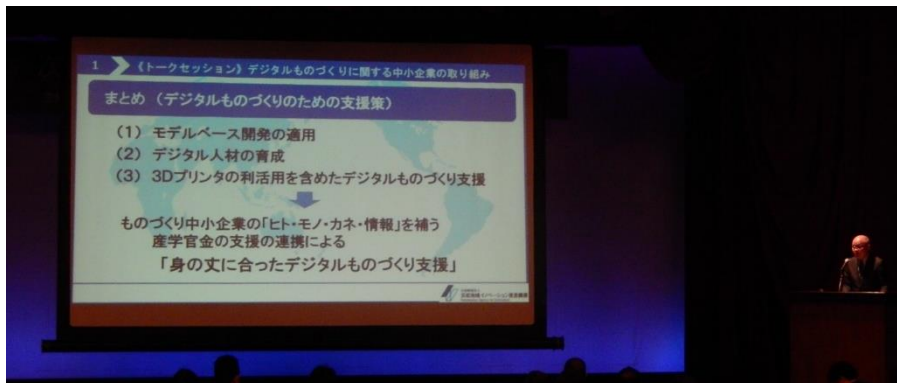
＜静岡大学 早川教授 様＞



＜静岡県 増田部長 様＞



＜まとめ＞



## 【参加者の声】

### ○基調講演

- ・自動車産業を取り巻く状況を分かり易くまとめて頂き、新たに知ることも多く、今後の事業展開に活かしていきたい。
- ・BEV、BEV 以外との向き合い方、選択と集中をどのようにやっていくか、今後に対する見方が勉強になった。
- ・変革を必要としている今、企業と人材がどのように取り組んでいかなければいけないか、市場に沿った考え方を学んだ。
- ・我が国の電動化、C N等の立ち位置、課題が明確に説明され、また、対策も講じられていることを理解できた。
- ・自動車産業を取り巻く状況などを分かりやすく説明いただいた。また、この変革の時代においては、自社の強み、時代の変化を捉えることが重要とのメッセージは印象に残った。
- ・業界の概要、今後の流れ、動向について非常に分かりやすい講演だった。世界の業界の中で日本がどういった位置にいるのか等、具体的に示されており、大変参考になった。
- ・EV 化、デジタル化への急激な変化の中、自社の強みを知る、時代の変化を知ることが大事ということが共感できた。
- ・内燃機関に特化した製品の製造が主力の中で、BEV 化の進展により仕事の減少を危惧していたが、全体の市場拡大により BEV 以外のマーケットとの共存の話は大いに希望が湧いた。

### ○次世代自動車センター活動報告

- ・地域企業に対し、様々なアプローチで固有技術の探索に尽力されていることがわかった。
- ・中小企業の困りごとを本当に事業活動に落とし込んでいて、中小企業ニーズの深堀は素晴らしい。
- ・会員のうち、取り組みに参加できていない企業が一定数いる点、動きが遅ければ機会損失に繋がるため、意識付けになった。
- ・幅広い活動事例・成果も多数あり、センターの社会的意義が理解できました。
- ・自動車部品サプライヤーがデジタル化の取り組みにあたり、必要となる項目が体系化され、かつ企業規模別にメニューがある点が素晴らしいと思った。
- ・中小企業の生き残りのため固有技術の見える化、提案力の向上などの重要性が理解できた。
- ・センターの取組に対し、会員の我々がどのように取り組んでいくかによって、今後の将来が変わると認識した。
- ・カーボンニュートラル対応は、まわりの取組みを参考にすることが多いため、状況がわかり大変参考になった。

### ○トークセッション

- ・具体的に個別のテーマが設定されており、議論が深堀りされていたため理解度が高まった。
- ・デジタルモノづくりについて、中小企業が持つ課題(ヒト、モノ、カネ、情報)について理解することができた。
- ・CAE 活用(完成車メーカーとサプライヤー)による新たなモデルベース開発の取組みは、日本自動車産業が勝ち残るために必要と思われる。
- ・モデル共有というキーワードを様々な場面で見るが、実際にカーメーカーが思っていること、中小企業への要求する内容を知ることができた。
- ・デジタルものづくりを活用した開発効率の向上、それに必要な人材も一緒に向上させていく必要があることを学んだ。
- ・自動車そのものだけでなく、開発方法や人材の在り方も大きく変化してきていることがわかった。
- ・補給部品への3Dプリンタの適用事例は参考になった。
- ・3テーマ全てが参考になった。3Dプリンタ支援策は大変良い活動と感じた。